

## 第849回宮城県教育委員会定例会日程

日 時：平成26年1月15日（水）午後1時30分から

場 所：県行政庁舎 16階 教育委員会会議室

- 1 出席点呼
- 2 開会宣言
- 3 第848回教育委員会会議録の承認について
- 4 第849回教育委員会会議録署名委員の指名
- 5 教育長報告
  - (1) 教育塔・教育祭に対する献花の請願への対応について (総務課)
  - (2) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」実施等に関する請願への対応について (義務教育課)
  - (3) 第8回大川小学校事故検証委員会の概要について (義務教育課)
- 6 専決処分報告
  - (1) 職員の人事について (総務課)
  - (2) 第345回宮城県議会議案に対する意見について (総務課)
  - (3) 教育功績者表彰について (教職員課)
- 7 議 事
  - 第1号議案 宮城県美術館協議会委員の人事について (生涯学習課)
- 8 課長報告等
  - (1) 県有体育施設のネーミングライツについて (スポーツ健康課)
  - (2) 平成29年度第41回全国高等学校総合文化祭宮城大会について (生涯学習課)
- 9 資料（配付のみ）
  - (1) 教育庁関連情報一覧について (総務課)
  - (2) 基本的生活習慣の定着促進に係る知事対談の概要について (教育企画室)
  - (3) 「学校いじめ防止基本方針」策定のための資料について (義務教育課)
  - (4) 平成26年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について (高校教育課)
  - (5) 宮城県美術館特別展「ミュシャ展」の開催について (生涯学習課)
- 10 次回教育委員会の開催日程について
- 11 閉会宣言

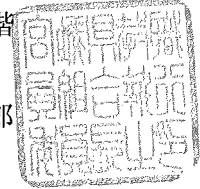
宮教組発71号  
2013年10月29日

宮城県教育委員会

委員長 庄子 晃子 様  
教育長 高橋 仁 様

宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45

フォレスト仙台4階  
宮城県教職員組合  
執行委員長 高橋 達郎



## 教育塔・教育祭に対する献花の請願

### 【請願趣旨】

東日本大震災から、2年7か月が過ぎました。震災からの教育復興にご尽力いただいていることに感謝いたします。

さて、去る10月27日、大阪市の大阪城公園内にある教育塔において、第78回教育祭が行われました。

この教育塔とは、1934年の室戸台風によって犠牲となった600数十名の子ども・教職員を追悼し、このような惨事が起こらないことを願って当時の帝国教育会が建設した記念碑です。また、教育祭とは、亡くなった教育関係者を教育塔に合葬し追悼する式典です。戦後、帝国教育会が解散し、教育塔の管理と教育祭の運営は、日本教職員組合が受け継ぎできました。（資料①）

昨年度まで、この教育塔には宮城の教育関係者234名が合葬されています。そのうち、自然災害では、1960年のチリ地震津波で犠牲となった志津川小中学校の生徒5名、1978年の宮城県沖地震で犠牲となった小学生5名が合葬されています。（資料②）

昨年度の第77回教育祭では、宮城からは39名、うち東日本大震災で犠牲となった児童生徒18名、教職員14名、保護者4名、合計36名が遺族の希望によって合葬されました。式典では、宮城の中学生が友人を代表してお別れの言葉を述べました。

今年度の第78回教育祭では、宮城から、東日本大震災で犠牲となった生徒1名、保護者7名、教職員1名、合計9名が合葬されました。そして、遺族代表の言葉を宮城の教職員の遺族が行いました。（資料③）

この教育祭には、内閣総理大臣、文部科学大臣、衆参院議長、全国都道府県議会議長会、全国都道府県教育委員会連合会、各都道府県教育委員会、日本PTA全国協議会など、多くの教育関係団体から献花が届けられています。去年は、宮城県教育委員会からも花輪をいただきました。

しかし、今年度の教育祭には、宮城県教育委員会からは献花をいただけませんでした。今後も教育祭には、大震災の犠牲者が合葬されることが予想されます。ぜひ、教育塔と教育祭の意義、遺族の思いをご理解いただき、今後は毎年予算化して教育祭への献花をお願いするものです。

### 【請願事項】

- 1 来年度から、教育塔・教育祭に対して、宮城県教育委員会として献花をお願いします。



資料①-1

# 教育塔

教育塔

地図

教育祭

年表

申請

第78回教育祭は、  
2013年10月27日(日) 午前10時  
から開催します。

## 由来

1934年9月21日、突如大暴風雨（後に室戸台風）が関西地方を襲いました。秒速60mという強風及び大高潮はあらゆる方面に大惨事を及ぼしました。学校においては始業の前後でもあり多数の木造校舎が倒壊し、教職員25名をはじめ600名を超す子どもたちが亡くなるなどの甚大な被害がありました。災害直後、大阪の教育界は二度とこのような惨事が起こらないことを願って、子ども、教職員を追悼し、その名を永くとどめるため、記念碑の建設を発議し、帝国教育会が臨時総会において記念塔を建設することを決定しました。全国の教育関係者はこの呼びかけにこたえ、児童、生徒、教職員、一般有志の方から32万円を超える寄付が寄せられ、大阪城公園にそびえる塔ができました。

1935年（昭和10年）9月地鎮祭、1936年（昭和11年）8月定礎式、1936年（昭和11年）10月30日に竣工の運びとなり、この日に第1回教育祭が行われました。以来、教育祭は例年10月30日に挙行されてきました。

塔の建築には教育塔建設費に17万5千円、式典費、準備費等で合計32万円ほどがかかりました。塔の設計は公募され設計者は島川精さん、塔の正面の浮彫りは長谷川義起さんが選ばれました。彫刻は災害時の情景と講堂での訓書清読の場面が描かれています。

① -2

祭典は建設当時から神式あるいは仏式で行われていましたが、日本教育会が解散した後（1948年）日本教職員組合が塔の維持・管理を受け継いでからは、宗教色をなくすよう努め、現在は無宗教形式で行われています。1981年には、教育塔内正面の塔心文「咸一其徳」（咸其の徳を一にす）から「やすらかに」に改めました。塔心説明文についても1981年10月に塔芯裏の「説明文」を戦前調のものから現代風に改め、1986年には「合祀」を「合葬（がっそう）」に、「祭主」を「主催者」に「奉納音楽」を「追悼音楽」に、献花中の音楽を「越天楽」から「葬送曲」に変更しました。

第50回（1985年）教育祭では180人が合葬され、特別合葬者の中には御巢鷹山での日航機墜落事故（1985年）の犠牲者が含まれています。

戦後50年の節目に教育塔の外観や内部の大修理を行うとともに、第60回（1995年）教育祭では154人が合葬されました。阪神・淡路大震災で自宅の倒壊や火災により亡くなった121人を特別合葬するにあたり「教育塔説明掲示板」を全面的に書き改めました。また60回を記念する行事も行われました。2002年から2005年にかけては、教育塔前広場の砂利補充、塔の屋根全体のサビ止め、広場の側溝の工事、教育塔の全体の清掃を行いました。

[教育塔](#) | [地図](#) | [教育祭](#) | [年表](#) | [申請](#) | [トップ](#)

Copyright © 2006-2012, JTU All rights reserved.

① - 3

# 教育塔

## 教育塔

由来とあゆみ

維持管理および  
教育祭の運営

すがた

## 地図

## 教育祭

年表

申請

## 教育祭のあゆみ

1934(昭和9年)年11月22日に教育塔建設を帝国教育会の事業として決定した後、建設のための寄付金募集や補助金の要請、塔設計図、及び壁面嵌装浮彫の懸賞募集が行われ、翌年9月に地鎮祭、そして1936年10月に完成を見ました。

第一回教育祭は、1936年10月30日に執行されました。教育祭には、文部大臣や宮内大臣はじめ、大阪府知事、大阪市長など行政関係者や各界の代表が出席し、神式による式典の後、永田秀次郎帝国教育会会長による挨拶があり、ラジオ放送により全国中継されました。

第一回の教育祭では、室戸台風の犠牲者のみならず、学制発布以来の犠牲者（当時は殉職者）と併せて、学校教育時間内において不慮の災厄で死亡した児童・生徒・学生を慰藉することになりました。（教職員137名、児童・生徒・学生ら1,435名 「教育塔誌」より）

時あたかも第一次大戦後の世界恐慌の中、日本も不況に見舞われ、特に農村部では厳しい生活を強いられていました。そのため、中国への開拓移民や満蒙開拓青少年義勇軍の募集が行われていました。このような中、国威発揚のために教育も戦争遂行の積極的な役割を担わされました。

この頃の教育祭の式辞や挨拶では「教育盡忠」「教育報国」などの言葉が使われたり、職務遂行中での犠牲者を「殉職」として賛美したり、「英霊」として合祀されることが当たり前の世の中でした。

また、教育祭では追悼のための式典だけではなく、教育祭に併せて、教育大会や講演会、体育大会なども併せて行われていました。

1944年の第9回教育祭からは「大日本教育会」が主催しましたが、その後、1948年からは「日本教職員組合」が主催しています。同時に教育塔の維持管理も引き継ぐこととなりました。

戦後は、戦争によって命をなくした多くの学校関係者、児童生徒・学生を追悼するとともに、1960年には沖縄戦でなくなった人々を特別合祀し、平和を守り命を大切にする祭典としての再出発と塔の保存、式典の改革に力を入れてきました。

また、毎年のように起こる自然災害や交通事故など人為的事故、学校事故による悲惨な出来事を繰り返すまいと国や都道府県行政への働きかけなども行い、通学時の事故を減らすために歩

① - 4

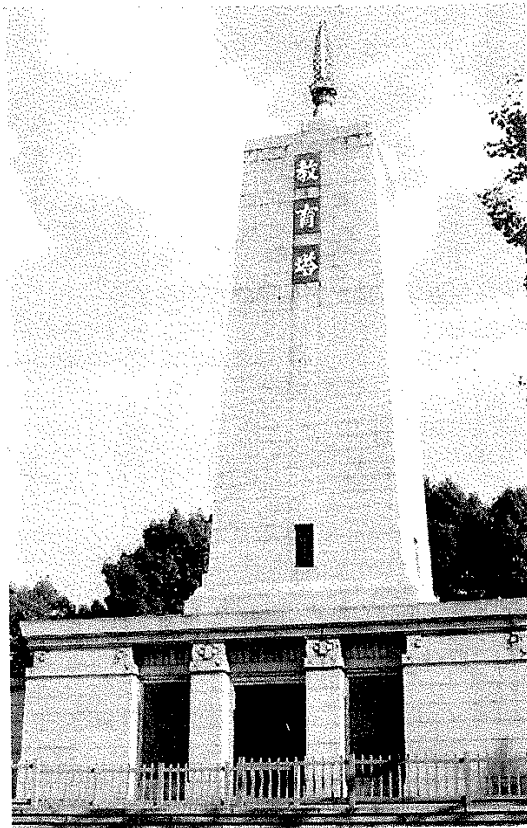
車分離式信号の増設も進められています。

最近の出来事では1985年の日航機墜落事故の犠牲者の方々や阪神淡路大震災の犠牲者、新潟中越地震で亡くなられた方、O157での集団食中毒でなくなった児童を特別合葬しています。教育祭は今年で第77回を数えます。

[教育塔](#) | [地図](#) | [教育祭](#) | [年表](#) | [申請](#) | [トップ](#)  
[由来とあゆみ](#) | [維持管理及び教育祭の運営](#) | [すがた](#)

Copyright © 2006-2012, JTU All rights reserved.

教育塔合葬宮城県関係者一覽



教育塔 (大坂)

2013

宮城県教育関係職員録

より

宮城県教育団体関係

教育塔合葬者

年度	区分	氏名	死因	死亡時在籍校
昭和20年	教諭		爆死	南小泉国民学校
昭和20年	教諭		爆死	県立国民学校
昭和20年	生徒		爆死	二葉高校
昭和20年	生徒		爆死	二葉高校
昭和20年	生徒		爆死	二葉高校
昭和20年	生徒		爆死	二葉高校
昭和20年	生徒		爆死	県立水産学校
昭和20年	生徒		爆死	県立水産学校
昭和20年	生徒		爆死	県立水産学校
昭和20年	学生		感電死	八軒小路国民学校
昭和20年	学生		事故死	八軒小路国民学校
昭和20年	学生		爆死	東北学院大
昭和20年	学生		溺死	東北学院大
昭和21年	学生		感電死	東北学院大
昭和21年	学生		爆死	東北大附属教員養成所
昭和21年	学生		爆死	仙台工専
昭和21年	学生		事故死	仙台工専
昭和21年	学生		爆死	仙台工専
昭和21年	学生		遭難死	東北帝大
昭和21年	教諭		爆死	東北帝大
昭和27年	教諭			吉住小学校
昭和27年	教諭			北浦尋常小学校
昭和31年	教諭		事故死	上杉山通小学校
昭和31年	児童		事故死	上杉山通小学校
昭和32年	教諭		事故死	五橋中学校
昭和33年	教諭		病死	齋川小学校
昭和34年	教諭		病死	円田小学校
昭和34年	教諭		病死	中津山中学校
昭和34年	教諭		病死	白石高等学校
昭和35年	児童		事故死	錦織小学校
昭和36年	教諭		病死	平沢小学校
昭和48年	教諭		病死	丸館中学校
昭和39年	教諭		病死	大河原小学校
昭和39年	教諭		交通事故死	丸館中学校
昭和39年	児童		事故死	船岡小船迫分校
昭和39年	生徒		事故死	古川中学校
昭和39年	児童		水死	上愛子小学校
昭和39年	生徒		交通事故死	宮崎中学校
昭和39年	父兄		溺死	広瀬小学校
昭和40年	生徒		交通事故死	湊中学校
昭和40年	教諭		病死	不動堂中学校
昭和40年	教諭		病死	吉岡中学校
昭和40年	学生		事故死	飯野川高校
昭和40年	生徒		事故死	舘岳中学校
昭和40年	児童			福岡小学校
昭和40年	児童		交通事故死	大衡第一小学校
昭和40年	児童		交通事故死	富谷小学校
昭和40年	生徒		病死	女川第一中学校
昭和40年	父兄		事故死	千貫中学校
昭和42年	教諭		事故死	鳴子中学校
昭和42年	児童		交通事故死	大衡第一小学校
昭和42年	児童		交通事故死	増田小学校
昭和42年	生徒		交通事故死	南郷中学校
昭和43年	教諭		病死	荒浜小学校
昭和43年	児童		交通事故死	大河原小学校
昭和43年	生徒		事故死	女川第一中学校
昭和43年	生徒		病死	女川第一中学校
昭和43年	生徒		溺死	佐沼中学校
昭和43年	生徒		溺死	佐沼中学校
昭和43年	生徒		溺死	佐沼中学校
昭和44年	生徒		事故死	気仙沼水産高等学校
昭和44年	生徒		水死	気仙沼高等学校
昭和44年	生徒		事故死	佐沼中学校
昭和44年	児童		事故死	志津川小学校

昭和44年 組合書記  
 昭和44年 教諭  
 昭和44年 使丁  
 昭和44年 教諭  
 昭和44年 教諭  
 昭和45年 教諭  
 昭和45年 生徒  
 昭和45年 生徒  
 昭和45年 生徒  
 昭和46年 生徒  
 昭和46年 生徒  
 昭和46年 児童  
 昭和46年 児童  
 昭和47年 教諭  
 昭和47年 生徒  
 昭和47年 児童  
 昭和48年 児童  
 昭和48年 教諭  
 昭和49年 教諭  
 昭和49年 教諭  
 昭和49年 児童  
 昭和49年 児童  
 昭和49年 児童  
 昭和49年 児童  
 昭和49年 生徒  
 昭和50年 教諭  
 昭和50年 教諭  
 昭和50年 教諭  
 昭和50年 校長  
 昭和50年 生徒  
 昭和50年 生徒  
 昭和50年 生徒  
 昭和50年 児童  
 昭和50年 児童  
 昭和51年 教諭  
 昭和51年 教諭  
 昭和51年 生徒  
 昭和51年 児童  
 昭和51年 児童  
 昭和52年 生徒  
 昭和52年 児童  
 昭和52年 児童  
 昭和52年 用務員  
 昭和53年 教諭  
 昭和53年 児童  
 昭和53年 生徒  
 昭和53年 児童  
 昭和53年 児童  
 昭和53年 児童  
 昭和53年 児童  
 昭和53年 生徒  
 昭和54年 教諭  
 昭和54年 巡視  
 昭和54年 生徒  
 昭和54年 生徒  
 昭和54年 生徒  
 昭和55年 教諭  
 昭和56年 教諭  
 昭和56年 教諭  
 昭和56年 生徒  
 昭和56年 生徒  
 昭和56年 児童  
 昭和57年 教諭  
 昭和58年 生徒  
 昭和59年 生徒  
 昭和60年 生徒  
 昭和60年 児童  
 昭和60年 教諭  
 昭和61年 教諭  
 昭和61年 生徒  
 昭和63年 児童  
 昭和63年 児童

交通事故死 宮城県高等学校教職員組合書記  
 交通事故死 黒川高等学校  
 交通事故死 仙台高等学校  
 溺死 塩釜女子高等学校  
 病死 荒浜小学校  
 病死 東大崎中学校  
 溺死 涌谷中学校  
 事故死 志田中学校  
 事故死 志田中学校  
 溺死 西多賀中学校  
 交通事故死 栗駒中学校  
 尾松教場  
 交通事故死 福岡小学校  
 交通事故死 三本木小学校  
 病死 若柳中学校  
 有賀教場  
 交通事故死 七ヶ浜中学校  
 交通事故死 亦楽小学校  
 病死 萩野第二小学校  
 普賢堂分校  
 交通事故死 小里小学校  
 交通事故死 小松島小学校  
 病死 角田小学校  
 交通事故死 高清水小学校  
 交通事故死 館矢間小学校  
 溺死 広淵小学校  
 溺死 立町小学校  
 交通事故死 田尻中学校  
 病死 小午田中学校  
 病死 大島中学校  
 病死 唐桑小学校  
 病死 唐桑小学校  
 交通事故死 七北田中学校  
 病死 上杉中学校  
 交通事故死 村田第一中学校  
 溺死 佐沼小学校  
 交通事故死 須江小学校  
 交通事故死 若柳中学校  
 病死 中田中学校  
 病死 月見ヶ丘小学校  
 交通事故死 根白石中学校  
 溺死 高砂小学校  
 交通事故死 清水小学校  
 交通事故死 富岡中学校  
 病死 小原小学校  
 病死 塩竈第二小学校  
 交通事故死 佐沼中学校  
 事故死 中津山小学校  
 病死 吉岡小学校  
 病死 浦戸第一小学校  
 病死 五城中学校  
 病死 金田小学校  
 交通事故死 栗原農業高等学校  
 病死 東和中学校  
 交通事故死 角田女子高等学校  
 交通事故死 五城中学校  
 病死 白石中学校  
 病死 向陽小学校  
 事故死 南小泉中学校  
 事故死 築館中学校  
 交通事故死 連坊小路小学校  
 交通事故死 一迫中学校  
 病死 八乙女中  
 交通事故死 米山中学校  
 病死 東仙台中学校  
 溺死 志波姫小学校  
 病死 不動堂中学校  
 交通事故死 稲井小学校  
 病死 門脇中学校  
 交通事故死 愛島小学校  
 交通事故死 愛島小学校

1989年度(平成元年度)第54回教育塔合葬者  
 (※昭和64年は1989年1月1日~1989年1月7日まで。)  
 昭和63年生徒 病死 利府中学校  
 昭和63年児童 事故死 吉岡小学校  
 平成元年児童 交通事故死 上愛子小学校

1990年度(平成二年度)第55回教育塔合葬者  
 1989年教諭 病死 築館中学校  
 1992年度(平成四年度)第57回教育塔合葬者  
 1991年児童 事故死 野蒜小学校  
 1992年教諭 病死 槻木中学校

1994年度(平成六年度)第59回教育塔合葬者  
 1993年生徒 事故死 志波姫中学校  
 1996年度(平成八年度)第61回教育塔合葬者  
 1995年教諭 病死 筆甫小学校  
 1995年児童 事故死 丸森小学校

1997年度(平成九年度)第62回教育塔合葬者  
 1995年事務職員 病死 汐見小学校  
 2006年度(平成十八年度)第71回教育塔合葬者  
 2006年生徒 交通事故死 志波姫中学校

2012年度(平成二十四年度)第77回教育塔合葬者  
 2012年教諭 病死 角田中学校  
 2011年校長 病死 川崎中学校  
 2003年生徒 病死 水産高等学校

特別合葬者

昭和35年生徒 千り地震津波 志津川中学校  
 昭和35年生徒 千り地震津波 志津川中学校  
 昭和35年児童 千り地震津波 志津川小学校  
 昭和35年児童 千り地震津波 志津川小学校  
 昭和35年児童 千り地震津波 志津川小学校  
 昭和53年児童 宮城県沖地震 向陽台小学校  
 昭和53年児童 宮城県沖地震 遠見塚小学校  
 昭和53年児童 宮城県沖地震 沖野小学校  
 昭和53年児童 宮城県沖地震 桜小学校  
 昭和53年児童 宮城県沖地震 白石第二小学校  
 平成23年教諭 東日本大震災津波 戸倉小学校  
 平成23年教諭 東日本大震災津波 馬籠小学校  
 平成23年主幹教諭 東日本大震災津波 吉浜小学校  
 平成23年教諭 東日本大震災津波 戸倉中学校  
 平成23年教諭 東日本大震災津波 大川小学校  
 平成23年教諭 東日本大震災津波 大川小学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 関上中学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 関上中学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 関上中学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 関上中学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 名取支援学校小学部  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 玉浦中学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 玉浦中学校  
 平成23年児童 東日本大震災津波 四郎丸小学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 塩竈第三中学校  
 平成23年児童 東日本大震災津波 下増田小学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 稲井中学校  
 平成23年児童 東日本大震災津波 稲井小学校  
 平成23年生徒 東日本大震災津波 女川第一中学校  
 平成23年児童 東日本大震災津波 玉浦小学校

宮城県教育団体関係



平成23年	児 童		東日本大震災津波	赤井南小学校
平成23年	生 徒		東日本大震災津波	戸倉中学校
平成23年	生 徒		東日本大震災津波	関上中学校
平成23年	生 徒		東日本大震災津波	関上中学校
平成23年	保護者		東日本大震災津波	荒浜小学校
平成23年	保護者		東日本大震災津波	北上中学校
平成23年	保護者		東日本大震災津波	四郎丸小学校
平成23年	保護者		東日本大震災津波	塩竈第三中学校

第78回教育祭合葬者数

都道府県	教職員	学生・生徒・児童・乳幼児	保護者、医療・教育関係者	特別合葬			都道府県	教職員	学生・生徒・児童・乳幼児	保護者、医療・教育関係者	特別合葬		
				教職員	学生・生徒・児童・乳幼児	保護者、医療・教育関係者					教職員	学生・生徒・児童・乳幼児	保護者、医療・教育関係者
北海道							滋賀						
青森	1						京都						
秋田							奈良						
岩手	1	2		1	2		和歌山						
山形							大阪	1		2			
宮城					1	8	兵庫						
福島							鳥取						
栃木							岡山						
茨城							島根						
群馬							広島						
埼玉							山口						
千葉							香川						
東京							徳島						
神奈川	1						愛媛						
山梨	2						高知						
長野							福岡						
静岡							佐賀						
新潟							長崎						
富山							大分	1					
石川	1						熊本						
福井							宮崎						
愛知							鹿児島						
岐阜							沖縄						
三重							計	8	2	2	1	3	8
							総計	24					

特別台葬

教職員の部				
名前	生年月日	学校名 死亡時 職名	死亡 年月日	事 歴
		釜石市立鶴住居小学校 事務職員	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。

【岩手】

学生・生徒・児童・乳幼児の部				
名前	生年月日	学 校 名 死亡時 職名	死 亡 年 月 日	事 歴
		陸前高田市立第一中学校 1年	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		岩手県立前沢高等学校 1年	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。

【岩手】

保護者・校医の部				
名前	生年月日	学 校 名 死亡時 職名	死 亡 年 月 日	事 歴
		気仙沼市立気仙沼中学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		名取市立関上中学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		名取市立関上中学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		名取市立関上中学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		東松山市立赤井南小学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		岩沼市立玉浦中学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。
		岩沼市立玉浦小学校 保護者	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。

教育関係者などの部

名前	生年月日	学 校 名 死亡時 職名	死 亡 年 月 日	事 歴
		南三陸教育事務所 主査	2011年 3月11日	東日本大震災の津波で犠牲となり、死 亡。

【宮城】

遺族代表挨拶

ご紹介いただきました宮城県の村上勝正です。第78回教育祭におきまして新たに合葬されました21名の遺族を代表いたしまして、ひとことお礼を述べさせていただきます。

本日は多くの方々が見守ってくださる中、このように厳粛な儀式をとりおこなっていただき誠にありがとうございます。

また、先ほどより日本教職員組合 中央執行委員長 加藤 良輔様をはじめ多くの方々より心温まる追悼のお言葉を頂戴いたしまして、遺族一同深い悲しみの中ではありますが、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

2011年3月11日、私たちにとってあの日の出来事は一生忘れられないものとなりました。

長男宏規は、高校卒業後、県職員、学校事務職員として勤務し、15年が過ぎようとしている時でした。

東日本大震災当時は、南三陸教育事務所に勤務し、南三陸町防災庁舎において被災。現在もまだ行方不明です。息子は防災担当でした。防災庁舎での第一声は

「県から来ました村上です。遅くなりました。」と大きな声だったそうです。

何事にも一生懸命で責任感の強い息子でした。婚約もし、その年の11月3日に結婚式も決まっていたので、とても信じられず、婚約者の方に伝える事が辛かったことが思い出されます。

私たちは、息子が34歳の誕生日を迎えたことを区切りに、送ることを決心しました。息子が帰ってこないまま、数枚の手紙と部屋にあった思い出の品々を骨壺に入れ、葬儀をしましたが、まだ埋葬出来ずに祭壇にあります。

私たちは、婚約者の方に宏規の分まで幸せになって頂く事と、息子が帰って来ることを信じて待っていたと思います。

遺族には、何年たっても語りつくせぬ思いや無念の思いが胸の中に渦巻いております。けれども、故人が残してくれた思い出やメッセージを心のよりどころとして、しっかりと生きていく所存でございます。

最後になりましたが、本日の教育祭のためにお世話下さいました皆様に対しまして、心よりお礼を申し上げ、謝辞とさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

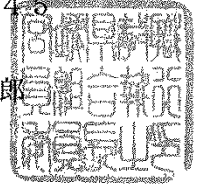
2013年10月27日 第78回教育祭 遺族代表 村上 勝正

宮教組発第85号  
2013年12月26日

宮城県教育委員会

教育委員長 庄子 晃子 殿  
教育長 高橋 仁 殿

請願者 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45  
宮城県教職員組合  
執行委員長 高橋 達郎



文部科学省「全国学力・学習状況調査」実施等に関する請願

【 請願の趣旨 】

東日本大震災から2年9ヶ月が過ぎましたが、津波被害の沿岸部の復興は進まず、被災者の生活と生業の再建は困難を抱えたままです。また、被災した学校は、他校の間借り教室や仮設校舎で不自由な教育活動を強いられています。仮設住宅が建ち並ぶ校庭、進まない校舎の再建工事など、教育施設設備の復旧も教育条件整備も遅れており、子どもたちの学習権が十分に保障されているとは言い難い状況にあります。

そして、親や兄弟、家族をなくした子ども、家を流された子ども、やむを得なく生まれ故郷を離れなければならなくなった子どもなど、多くの子どもたちが心に傷を負いながら、毎日、健気に学校生活を送っています。2万戸を超える狭い仮設住宅での生活は、防音の問題など子どもたちが落ち着いて学習できる環境になっていません。ストレスがたまり、心のケアを必要とする状況は、周辺部の学校にまで広がっています。

この間に発表された宮城の子どもたちに関する調査結果は、中学校不登校率全国1位、いじめ発生率全国3位など、子どもたちの間に様々なストレスが蓄積されてきていることを示しています。それは、教職員が子どもたち一人ひとりと向き合う時間の必要性を物語っています。

今年、県教委福利課が行った第2回の教職員健康調査は、震災以降、限界を超える過重な勤務、指導内容・業務の増加で教職員が深刻な状況にあることを示しています。震災後2年目でも「業務量が大幅に増えた・増えた」が43%に達しました。また、「体調があまり良くない・悪い」と「ストレスを大変強く・強く感じる」は前回よりも増加し、どちらも約25%と4人に1人という結果となりました。その理由の第1は「多忙・業務量の増大」で、「バーンアウト」は「注意・要注意」が22%、5人に1人にも達しています。

こうした状況の中、文部科学省は11月29日に、来年度の「全国学力・学習調査」の実施要項を発表しました。その中で、これまで禁じてきた市町村教育委員会による学校別の成績公表を認めました。

学校別の成績公表は、小中学校のランク付けや子ども同士の競争激化をもたらすことが予想されます。文部科学省専門家会議が7月に行った調査でも、「教育委員会の結果公表」に賛成したのは、市町村教育委員会で17%、学校で19.8%にすぎません。「公表」反対の理由としては、「序列化につながる」約9割、「調査対策の偏った授業になる」約6割という結果になっています。市町村教育委員会や学校現場が望んでいないことをなぜ、文科省は認めたのでしょうか。

宮城県教育委員会は、昨年度の「全国平均」と比較して低下した今年度の「調査」結果を受けて、10月、「学力向上に関する緊急会議」を開催しました。その中で、年2回の学力テストを行っている地教委の取組を紹介し、「学力向上の取組」を各市町村教育委員会と学校に求めました。来年度に向けて、地教委の独自テスト実施、さらに管理職による「学力調査」対策の動



きが強まっていることが県内各地の学校から報告されています。

いま、被災地宮城の子どもと教職員は、この「学力調査」を求めているのでしょうか。「全国平均」というやってみなければわからない数値、しかも全国の都道府県がこの数値を上げようとしている状況の中で、この「全国平均」を上回ることによってどのような教育的意味があるのでしょうか。どのような「授業」「活動」をすれば、全国平均を上回るということが保障されるのでしょうか。

私たち宮城県教職員組合は、学力競争を学校現場に持ち込み、子どもたちの人格形成に悪影響を及ぼし、教育の条理に反する「学力調査」に対して、一貫して反対し、中止を求めてきました。今年度もこの「調査」は、学校に様々な困難をもたらしています。何より、多くの子どもたちから自信を奪い、各学校の教育課程に影響を及ぼし、子どもと教職員に大きな負担になっていることが私たちのアンケート結果で明らかになっています。学校現場ではこの「調査」に全く意味を見いだせないのです。(別紙資料「2013年全国学力学習状況調査アンケート結果」参照)

いま、被災地・宮城の子どもたちに必要なのは、この「学力調査」「学力テスト」ではなく、安心できる居場所であり、それを保障する教育条件の整備です。学力向上のために必要なことは、教職員に今日の授業を振り返り明日の授業の準備するための時間を保障することです。子ども一人ひとりと向き合い、子どもの話や悩みを聞き相談にのるための時間を保障することです。私たち宮城の教職員が求めているのは、震災からの早期の復旧・校舎建築や少人数学級・教職員増員などの教育条件の整備です。少人数学級は、宮城県より財政力が低い山形や福島でも実現し、不登校問題や学力保障に効果をあげています。子どもたちの心のケア、学校再建、少人数学級などの教育条件整備にこそ十分な予算を付けるように、宮城県教育委員会として県と国に要望することを強く求めます。

すべての子どもたちが基礎的な学力をはじめ、自然や社会に対する知識や科学的な認識を身につけることは、父母・国民の基本的な教育要求であり、学校教育が担う基本的任務であることは論を待ちません。この基本的立場を踏まえ、私たちは、以下の事項を県教育委員会に請願するものです。

#### 【 請願項目 】

- 1 政府・文科省に対して、来年度以降の全国学力学習状況調査の中止とその予算を被災地の学校再建、教育の復興に使うことを求めること。
- 2 来年度、全国で実施する場合でも、宮城県は参加しないこと。
- 3 たとえ、実施した場合でも、調査結果について、競争をあおるような結果公表をしないこと。また、各地教委に対して、そのような結果公表をしないよう指導すること。
- 4 宮城県教育振興基本計画に見られるような点数主義に偏っている「学力向上」策を転換し、全国平均点を上回ることを目標とした「宮城県学力向上推進プログラム」を見直すこと。
- 5 すべての子どもたちの学力保障と子どもと向き合う時間の確保のために、30人学級と教職員定数の大幅増を国・文科省に要求すること。当面、県独自による35人学級を全学年に拡大すること。

## 2013全国学力調査アンケート結果と考察

2013年12月26日

宮城県教職員組合教文部

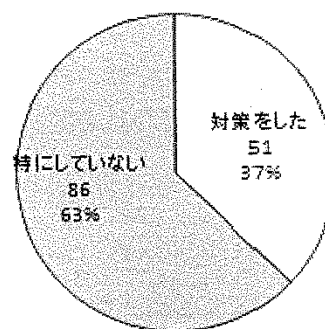
2013年6月～7月 アンケート実施

回答学校数 小学校91校, 中学校46校, 合計137校 (回答者は主に分会の組合員)

### 1. 「学力調査」に向けて、前年度の復習など、事前対策をしましたか？

対策をした	51校 (37%)	(小41校 中10校)
特にしていない	86校 (63%)	(小50校 中36校)

「特にしていない」学校の方が多いが、「対策をした」学校が37%もある。特に小学校では多く、45%の学校で行っている。「校長からの指示」「町からそのような話があった。」「職員会議の場で『過去問をやってみて慣れさせる』と決めた」等、自由記述の回答から昨年同様、管理職や外部からの圧力が強まっていることが伺える。



対策の中身は「過去問に取り組ませた。」「前年度の復習プリントを出した。」といったものが多い。また、前年度中や、春休みの宿題・家庭学習(宿題)として取り組ませている学校も増えてきている。

#### 【対策をすることになった経過、対策の内容】

##### 小学校

- ・校長からの指示(2人)
- ・町からそのような話があった。
- ・職員会議の場などで「過去問をやってみて慣れさせておくのもよい。」と、公に話し合われて、ネットで調べて取り組んでいた。
- ・過去問を数年分解いた。
- ・前年度の復習プリントを出した。(宿題)
- ・過去の問題をいくつか解かせてみた。校長からも勧められた。担任と相談し、やった方がいいと判断した。
- ・宿題程度
- ・問題と答えが別の用紙だったのでそれに慣れるため練習した。
- ・子どもたちのB問題の対応(考え方が分からないなど)が十分でないので問題の解き方を指導した。
- ・簡単なプリント復習
- ・5年の終わりごろ問題になれるために実施。
- ・春休みを活用して5年生の復習プリントに取り組ませた。児童の実態より春休みに課題を持たせることが適切だと判断した。

- ・宿題の算数プリントの内容を5年生の内容のものを加えた。
- ・前年度の問題に取り組んだ。
- ・直前に行っていないが、5年生の段階でその年の問題に一度取り組んだ。テストの問題に慣れるため。
- ・学力向上に向けての校内での取組。
- ・昨年度中に昨年度の問題に取り組んだ。

### 中学校

- ・準備をするように指示があった。
- ・校長から指示があり（他校の取り組みのあおりもあると思う）前年度中に取り組ませた。
- ・過去問を宿題としてやらせた。
- ・前年の問題を解いた。
- ・春休みに過去問を課題として配布した。
- ・様々な形式で出題されることを知っておくため、過去問を宿題として。
- ・他の学校でも対策をしているとのことで、過去問を行った。
- ・対策してまで結果にこだわる必要があるかと思います。

## 2. 今回の学力テスト実施に際して、授業や行事など学校教育への影響はありましたか。

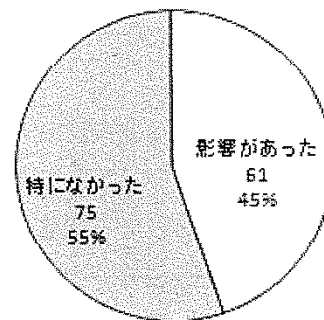
影響があった	61校（46%）	（小39校 中22校）
特になかった	75校（54%）	（小51校 中24校）

「影響があった」学校は、半数近い46%もあった。今回は全国一斉のテストであり、ほとんどの学校で年間計画に組み込まれている。もっとも多かったのが「授業時数の削減」であった。

また、修学旅行などの行事にも影響の出た学校もあった。

「年度始めで最上級生として行事やクラブ、委員会などの準備で忙しい中、テスト対策をしながらのテストはきつかった。」

「4月の忙しい時はやめてほしい。」というように、時期の問題に対する意見が多く見られた。



### 【影響の内容】（自由記述）

#### 小学校

- ・午前中いっぱいかかったのでその分の授業ができなかった。
- ・年度始めで最上級生として行事やクラブ、委員会などの準備で忙しい中、テスト対策をしながらのテストはきつかった。
- ・4月の忙しい時はやめてほしい。
- ・新しい単元に入るより復習に時間を費やした。
- ・自主的にやったにはしても、対策をする分通常の授業は遅れます。



- ・授業の進度が遅れた。
- ・授業時数の削減。
- ・進度に多少の影響あり。
- ・当日の午前中の授業が出来ない。
- ・6年の授業が行えない。当たり前のことだが、ほぼ1日テストで終わる。
- ・通常の授業ができない。
- ・授業時間が割かれた。

### 中学校

- ・一度決定していた修学旅行の変更。
- ・修学旅行が木～土となって、GWに入り苦勞した。
- ・修学旅行の日程がずれた。
- ・修学旅行の計画を前年度に行っていたが日にちを一日ずらさざるをえなかった。
- ・他学年にも授業に行っている教員がいるので、試験監督を割り振るのが大変だった。
- ・授業時数の減。当然授業がつぶれた。1～2時間授業をつぶす形になった。5時間時数の減。  
(多数)

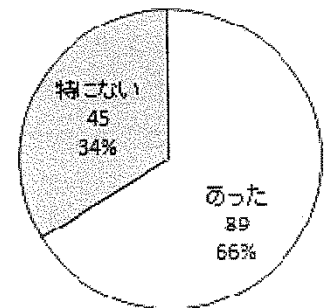
### 3. 子どもたちの負担はどうでしたか。(子どもの思い、テスト中の様子等)

あった	89校 (65%)	(小69校 中20校)	※無回答3校
特にない	45校 (33%)	(小21校 中24校)	

全体では「負担があった」は65%と全体の3分の2を占めた。特に小学校では76%に上っており、47%の中学校に比べ、負担が重かったことが伺える。

「分量を見ただけで取り組めなくなるタイプ」「生徒は何の疑問も抱かずに黙々と行っているが、ストレスにはなると思う。」

「下位の子どもには難しすぎる。」「下位の子どもたちにとっては自信をなくすだけ。」「各校ごと、県ごとの平均が出ますが、それによって子どもたちの意識が下がっている～」「余剰時数が多く、またその大半が算数や国語に割り当てられており、児童の負担は大きい。」等のコメントから、問題が難しく、下位の子に心理的なプレッシャーが重くのしかかり、下位群の児童・生徒には苦痛の時間であることがわかる。平均点が示されることが自信をなくすことにもつながっている。



児童・生徒にとって1日中テストというのは、精神的にも肉体的にも想像以上にきついものであり、どうしても実施するのであれば2日間に分けて実施するなどの改善が必要である。

## 【負担の様子】（自由記述）

### 小学校

#### <難易度、問題量>

- ・特にあまりできない子は問題の意味さえつかめず10ぐらいで諦めていた子もいた。内容がひねりすぎているし、難しすぎる。
- ・テストが苦手な子どもにとってはきつかったようです。（保健室で休む児童がいた。）
- ・慣れない出題形式のためとまどう子が多かった。上位の子や塾などで慣れている子はそうでもないようだった。
- ・国語は特に難しく「自分はできなかった」という思いを持った子が多かった。（複数）
- ・時間が足りずやり切れないとぼやいていた。最後までやれずにできなかったという思いを抱いた。
- ・内容が難しく解けない問題が多く、問題数も多く、時間内に終わらず、子ども達はへこんでいた。
- ・難しい問題にストレスを持っていた。
- ・問題量が多く、解くのに苦勞していた。
- ・問題数が多く時間内に終わらず、子ども達はとまどっていた。
- ・特に下位の子が意欲を失っていた。

#### <テスト時間・疲れ>

- ・覚悟していたと思うがテストの連続は大変だったと思う。
- ・長時間のテストのためかなり疲れた様子だった。心身面での疲労。力尽きたという感じ。（多数）
- ・午前中テストで終わりなので4時間はきつい。
- ・午前中びっしりテストということで大変そうでした。
- ・自信をなくす、元気がなくなる、どっぶり疲れる、等。
- ・長時間難しい内容のテストに取り組むことでストレスを感じていた。
- ・子ども達はぐったりしていた。
- ・やり慣れていないので疲れたという意見あり。
- ・頑張って取り組んでいたが負担はあったと思う。
- ・一日中テストだったので飽きてくるし、疲れる様子も最後の方に見られた。

### 中学校

#### <意味>

- ・普通のテストもしくは無料で行えるテストという感覚。結果が時期外れに返ってきてても使えません。

#### <時期>

- ・修学旅行前日の5時間のテスト
- ・次の日が修学旅行ということで、慌ただしい感はあったと思う。

#### <難易度、問題量>

- ・記入できないまま時間がたっていたなど、分からない状態が続いていた。

### <疲れ・ストレス>

- ・午前中全てテストの実施に時間を取られ、精神的に疲れ切っていた。問題以外にも形式的に記入する箇所も負担。
- ・成績に関係ないとはいえ、テスト自体はストレスの原因になっている。
- ・テスト実施でストレスがたまる。
- ・実力テストが続いており辛そうな様子を感じた。
- ・それなりの緊張があった。

### <実施上の問題>

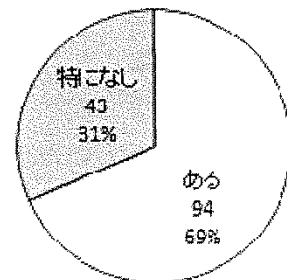
- ・他学年にも授業に行っている教員がいるので試験監督を割り振るのが大変だった。
- ・成績に関係がないと言ったら欠席が増えた。

### 4. 教職員にとって負担になった（なっている）ことはありますか。

あ る	94校 (69%)	(小58校 中36校)
特になし	43校 (31%)	(小33校 中10校)

「負担になっている」と答えた教員が3分の2以上もいた。

「事前準備と事後処理のため担当教員は休日返上で毎日遅くまで勤務だった。」「結果の分析・事後の指導に時間が割かれる」という長時間労働による負担から、「学力底辺校にとってはレベルの高いことを求められているようで苦しい。」「ただでさえ競争傾向にあるのに、ますます順位主義的になり子ども、保護者、教師のストレスが増す。」「順位が出ることから県や自治体ごとの格差が生じると感じる。その結果、教職員への圧力にならないかと心配である。」といった精神的な負担まで、問題が深刻であることが伺える。



学力テストの本来の目的が個々の児童・生徒の学力を伸ばす材料にするためであるのに、平均点を出して県、自治体で比べられることに疑問を持っている教員が多いことがわかる。

### 【負担の内容、影響】

#### 小学校

#### <問題なし・肯定的>

- ・担当学年は、やった方が良くという考えでいた。他学年から見てだが、特に話題にならなかった。
- ・今年は採点もなかったのがよかった。

#### <事務作業・長時間労働>

- ・準備・処理等で負担だった。

- ・前年度の分析等
- ・これまではなかったが集計等今後あることが予想される。
- ・問題の作成，個別指導におわれた。
- ・受け取り，まとめ，送り，大変。
- ・忙しい。実施要項などを読んでいる時間がない。
- ・教頭，教務が答案整理で大変。
- ・担任としては特に影響は感じられなかった。しかし添削に関わる先生などの時間は削られていたと思う。
- ・事前の準備。事後の処理。

### <プレッシャー・疲れ>

- ・同学年間での比較
- ・テスト当日は特にはないが，これから学力向上のために負担が増えるかもしれない。
- ・正しくテストできるか，など，緊張してテストに臨んだ。
- ・昨年は，テスト結果の分析などがあったので，それをやるのはいやだという気持ち。
- ・一日，これで終わる。
- ・特異な出題形式のため子どもたちがとまどわないように説明などに時間が取られた。
- ・実施すること自体。そしてその結果をまとめたり報告したりしなくてはならない仕組みになっていること。
- ・精神的に疲れた。
- ・プレッシャーを感じた。
- ・(心理的に) 結果がひどかったらどうしよう。
- ・結果に対するプレッシャー。
- ・学力を向上させたいのだから思うように伸びない。
- ・前年度の結果と比べられるのが負担。

### <子どもに対する思い>

- ・学习上、必要な子への配慮。
- ・下位の子にレッテルを貼っているようで心苦しい。

### <授業への影響>

- ・授業の進度が遅れた
- ・前学年の復習もしなければならなかったこと。
- ・事前対策をすると教科が進めない。

## 中学校

### <事務作業・事前指導・長時間労働・多忙>

- ・受け方の周知，テスト後の回収，チェック。
- ・結果の分析に時間が取られる。
- ・テストのための打ち合わせの時間がもったいない。

- ・打ち合わせの資料なども直前に渡され、慌ただしい中での実施となった。
- ・一度、全てのを解いてみるという労力。
- ・普段のテストよりもテック項目が多く監督するのも大変だった。
- ・結果の分析、その後の対策について話し合いを行うことで時間がかかる。
- ・事前にマニュアルを読んだり、当日の回収。
- ・分析→資料提出
- ・授業時間が、午後2時間あったため（団結式もあった）、次の日の準備の確認など気ぜわしかった。
- ・昨年度の問題の印刷がかなり大変だった。

#### <授業・行事への影響>

- ・日程が悪く、宿泊行事を圧迫している。
- ・テスト前までの打ち合わせ準備等は負担。また、終了後の確認。集約も余計。授業にももちろん影響。
- ・修学旅行前日の5時間のテスト。最終確認の時間がとれなかった。
- ・何より修学旅行に大きな影響があった。
- ・何より修学旅行に大きな影響があった。
- ・授業の進度が遅れた
- ・集計等で、本務に支障をきたしている。

#### <プレッシャー>

- ・結果が重荷に感じる。

### 5. 「学力向上」に向けてあなたの学校では、特別な取り組みをしていますか。

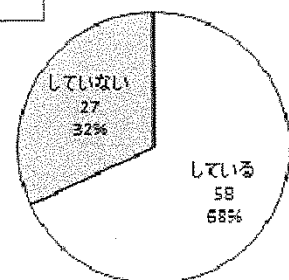
している	58校 (68%)	(小40校 中18校)
していない	27校 (32%)	(小17校 中10校)
※仙台市内の学校にはこの設問が無く、総回答校は95校となる。		

取り組みをしている学校が全体の7割近くを占め、特別の対策を多くの学校が講じていることが伺える。

取り組みの内容は、「校内研究で学力向上に取り組んでいる」と答えた学校が最も多かった。

その他に「ドリル学習」「家庭学習」「自主学習」等の取り組みが多い。「業前や朝の学習」「週に1度のスキルタイム（放課後）」「家庭学習の徹底」「自主学習ノートの提出」「週2回の町の共通テスト（国、算）」等さまざまな対策が行われており、子どもたちのゆとりの時間が削られている実態がわかる。子どもたちのストレスが懸念される。

また、「学力向上指定校」や「学力向上プログラム事業で授業研に全校的に取り組んでいる。」など、教職員の多忙化の一因ともいえる状況に拍車がかかっている様子も垣間見られた。今後の検討課題でもある。



「朝学習タイムの設定、家庭学習強化、T・T授業、でも肝心の教材研究に費やす時間は無し。」というコメントが象徴しているように、本来は日々の授業検討と教材研究こそが学力向上につながるものであって、その時間がなければ学力向上も望むことはできない。教材研究のための時間的保障をしっかりと確保することが求められている。

## 【取り組みの内容、問題点】

### 小学校

#### <校内研究・研究指定>

- ・校内研究では「言語活動の工夫」をテーマに全員授業を前提に取り組んでいる。
- ・校内研究の中での取組。指導法についての研修。
- ・校内研究で「話す・聞く」を中心に推進している。
- ・算数の校内研究において課題解決の仕方に重点を置いて取り組んでいる。
- ・学力向上を校内研究の主題として取り組んでいる。(複数)
- ・指定を受け、算数の教科の学力向上のためにいろいろ取り組んでいる。
- ・学力向上プログラム事業で、(算数科において)授業研に全校的に取り組んでいる。
- ・校内研究で、算数の力を入れている。
- ・県の「学力向上」のための研修を受けている。
- ・教科指導の留意点の確認。単元問題ライブラリーの活用。

#### <特別の時間設定や指導体制・補習>

- ・業前・放課後の個別指導。
- ・スキルタイム。(国、算のドリル)
- ・週に1度スキルタイムを放課後にして7年部、特別支援担任が手伝っている。
- ・学力向上に向けての取り組みは当然のこと。「テスト対策」のみでは問題ですが。
- ・朝の学習(火～金)15分×4回=60分/週
- ・教科的な意味でなく授業の学習内容の復習、定着。
- ・朝の活動でチャレンジタイムを実施している。
- ・ぐんぐんタイム、おおはりきりタイム、学校独自の取り組み。
- ・補習をしている。
- ・分析と対策。5年でやっている(過去問)
- ・少人数指導を取り入れて個に対する指導に当たっている。サンタイムという朝の活動での算数の計算力や線分図などの活用力を高めるような問題に取り組んでいる。
- ・町の取り組みとして週2回国語と算数の朝学習を行い町で共通のテストを行っている。
- ・5、6年生の自主勉強を6名の先生方(7年部の先生方も入れて)で分担して見ている。
- ・活用問題に他の学年も取り組むなどして問題に慣れるような働きかけがある。

#### <家庭学習>

- ・家庭学習を徹底してやっている。
- ・家庭学習の充実。(家庭で学習する習慣づけや自ら取り組む態度を育てている。)指導法の工夫。

- ・ T. T NRT検査
- ・ 朝学習タイムの設定，家庭学習強化，T. T授業，でも肝心の教材研究に費やす時間は無し。
- ・ 朝の活動の中で国語と算数の時間を設けており，算数はT. Tで取り組んでいる。

## 中学校

### <校内研究・研究指定>

- ・ 校内研究で取り組んでいる。
- ・ 校内研究として基礎基本の定着や各教科も学力向上の努力目標を掲げて実践している。
- ・ 校内研究にあわせ，朝の活動，家庭学習の内容吟味，指導者側の技術向上。
- ・ 学力向上指定校になった。ビジョンが示されないまま，「仕方なく・・・」では，こちらの意欲もわくものではない。
- ・ 校内研修のテーマとなっており，研究授業の回数が多い。

### <特別の時間設定や指導体制・補習>

- ・ 教科ごとの工夫。
- ・ 週 30 時間で回している。50 分授業増。
- ・ 朝のドリル，居残り勉強など
- ・ 帰り学習 10 分。・放課後 10 分間のドリル学習 など
- ・ 週末課題等
- ・ 自主学习ノートの提出，学習記録表，放課後学習会，(テスト前数回ですが)担任にとって毎日の点検作業が負担になっているようです。
- ・ 自主勉強ノートの提出を各教科で呼びかけている。
- ・ 朝自習や自主学习などを全校体制で行い，個人ごとに集計を行っている。
- ・ 家庭学習の習慣づけ
- ・ 特にしていない。

## 6. 学力テストについてどう考えますか。自由にお書きください。

「テストのためのテストになりつつある。」「確かな学力向上と連動させた，締めつけの道具」「内容が難しく普段の授業とかけ離れた感じがする。次年度はやめるべき。」「下位の子どもたちにとっては，自信をなくすだけ。また，テストの点数が最も大切なような錯覚が生まれ，本来の教育活動に支障をきたす。ペーパーテストの点数が教育をむしろむしばんでいくように感じる。」

このように学力テストそのもの子どもに及ぼす影響を心配する意見が多くみられた。

また，「多額の費用がかかっているのなら，廃止して教員や補助員を増やしたほうが良いと思う。」「お金を別なところに使ってほしい。」「このテストの実施で，テスト業者にかけている費用をもっと有効に使った方が，子どものためになると感じます。」のように，学力テストにかかる費用をもっと有効に子どもたちに還元できないか，という意見も多くあった。このように，自由記述のほとんどの意見は学力テスト

に否定的なものである。

一方で、わずかではあるが肯定的な意見もみられた。「一人ひとりの学力状況を分析することには意味があると思う。」「学力テストの問題等は、授業の参考になる良問もあり、全てが悪いとは考えていません。」「負担がかかるのはあまりよくないが子どもたちにとって刺激があるのは良いという意見もあり。」など。こういった意見も、学力テストがぜひ必要だ、というものではない。

今、必要なのは「本当に学力を上げたいのなら教員を増やし、きめ細かな指導体制を構築すべき。教育予算を増やす。」という意見に象徴されるように、子どもたちの教育環境をしっかりとした予算の裏付けのもとで整備することではないか。

### <学力テストについての自由記述>

※内容は組合が分類

#### 肯定的・一部肯定的な意見

- ・1年間の指導の結果がそれなりに数値に表れてくるので「指導者側の反省材料となり、課題が見えてくる」という点は評価できる。
- ・一人ひとりの学力状況を分析することには意味があると思う。
- ・負担がかかるのはあまりよくないが子どもたちにとって刺激があるのは良いという意見もあり。
- ・実態を知る面では良い面があると感じる。ただ、その結果を生かしきれているかは疑問が残る。また、順位が出ることから県や自治体ごとの格差が生じると感じる。その結果、教職員への圧力にならないかという心配はあるのではないだろうか。
- ・テストをすることで子どもたちに利点があるのなら、ぜひ実施すべきだと思う。
- ・児童個々の学力の定着についてデータをいただき授業の参考にすることができる点はあるがたいが、他校、他児、他県との比較することを目的にすることには疑問である。
- ・やるからには生かせればと思う。
- ・子どもの学力把握に役立つが結果の分析等、事後の負担を全てなくす。
- ・学力の傾向はわかると思うが、負担を考えるとどうか。
- ・あってもよいと思うが（6年担任の話）、今年は、経年調査もあり、（国でやる調査を）2回もやるのは多いと感じた。

#### 否定的な意見

##### <目的・意味>

- ・目的が見えにくくなっている。
- ・学力テストをやる必要性をあまり感じない。
- ・テストの内容は、授業で大切にしていたことを確認させたり、生徒の実態に応じて、学習への動機付けになるものなので、決して、全国一斉にできるものではない。その時間があれば、単元ごとに、こまめにテストを行う時間に使いたい。
- ・子どもたちにとって、あまり意味のないことに、時間を費やすのはおかしいと思う。データ集めとしか思えない。



- ・テストをする→採点して順位を出す→発表する→の後はどうなっているのか。子どもに返っていないと思う。
- ・テストのためのテストになりつつある。
- ・学力テストの目的が大切だと思います。テストのためのテストにはならないで欲しい。結果に振り回されてはいけないと思います。全員に結果が帰ってくるのはありがたいのですがもう忘れた頃になって届くのでスピーディだといいいと思います。
- ・全数調査を毎年する必要があるのでしょうか。
- ・平均点のみを評価基準にするのではなく、もっとテストをする意味をマスコミ、全国に伝える努力をして欲しい。
- ・学力の現状をとらえるのであれば、指導要領の範囲内の基本で、できるだけ少ない校数で。
- ・CRTをするのなら学力状況調査はしない方が良いのでは？

### <学力・レベル>

- ・学力が全てではない。最後は人間としての力だと思う。
- ・必要ない。平均点で何が分かるのか。
- ・活用力を見る問題は授業内容と離れすぎている。
- ・応用の問題は普通の授業から離れすぎている。下位の子どもには難しすぎる。
- ・こんな学力テストは実施すべきではない。内容が難しく普通の授業とかけ離れた感じがする。次年度はやめるべき。
- ・学力テストは意味がない。あのテストで計測できる「学力」はほんの一部ではないか。例えば中3の国語の漢字の読み書きをそれぞれ3問ずつ出題して漢字に関する学力を測定できるのだろうか。
- ・毎年実施する必要があるのか。学力テストの内容が、授業を変えることもある。どんな学力をつけようとしているのか、つけたいのか、という議論がないのでは？
- ・学校のランク付けという観点でとらえているのだとしたら、意味のないことだと思う。生徒の学力を測りたいのであれば、学力テスト実施後のケアを考えると、現場を忙しくするだけのテストにならない再考を願う。
- ・学力テストの客観性(%といっても少人数では?) ベネッセはもうかっているだろうなあ。
- ・ランク付けではなく何ができないのかを把握し、個の力を伸ばすものであってほしい。
- ・子どもたちの学力向上の役に立っていない。4時間かけて実施するくらいなら授業を進めたほうが良いと思う。
- ・「学力テスト」があっても、別段学力は向上していない。
- ・本当に学力向上を目指すのなら個にしっかり返すべき。現在の取り組み方では疑問が残る。
- ・学力は大事です。でも、点数だけが重要視されそこだけが目安にされていることが良くないと考えている。
- ・B問題についてはやっぱり問題あり。日常の授業、教科書の内容とかけ離れすぎている。  
「初等普通教育」の中で、あれを解く力を求められてはかなり苦しい、というよりは無理だし無茶。PISAの成績や順位を上げるための手段になっている。困ったものである。
- ・内容が独特なので通常の授業で能力差のある子たちを対応できるようなレベルまで引き上げることはかなり難しいです。「塾」みたいにやるなら別ですが、学校で育てようとしている力は学力テストのねらいとは合わないと思います。

- ・テストで分析されたデータが「今」必要なものなのか。教育課程が影響していると考えられるのに次に生かせるかが現場では十分に話し合う時間も取れない。提出用の書類にデータ分析、次の校内研究テーマへの・・・という使い方になっている。じっくり時間を割いて補習したほうがいいのではと思う。

### <数値化>

- ・確かな学力向上と連動させた、締めつけの道具。子どもたちのおおよその学力は、担任であればわざわざテストするまでもなくわかる。数値に振り回され、年に1度の数値の上下動に一喜一憂する教員にはなりたくない。
- ・数値が一人歩きしていくように思う。分析し、保護者向けに対策を打ち出し・・・など、無理に文章化している自分がある。どんどん形骸化しつつあるように思える。
- ・仙台市の平均と比べると・・・心が苦しいです。子ども、家庭、地域の違いで違いが出るのは当たり前なのでしょうが、数字で表されると自分のせいかしら・・・と思えてきて、いたまれなくなります。
- ・市の平均にとどいた、とどかないなどが話題の中心になってしまい、なんかおかしい。生徒全体の傾向を見るべきもので、各学校の学習がどうのこうのと言われるべきものなのか。
- ・学力テストが問題ではなく、その点数がよい悪い、県や全国平均と比べて等、比較の対象になっていることが悪いと思います。しかし、学力テストの問題等は、授業の参考になる良問もあり、全てが悪いとは考えていません。
- ・教務が、「学力調査を郵送する前に、学校で独自に採点し、実態を早めにつかんでどうか」と提案してきたので、「秋田でも、それをやっているが、教師の負担がとんでもないと悲鳴をあげている」といい、取り下げさせたといういきさつがあります。また、教頭が、4月初めに、「学力調査の過去問で家庭学習をさせたらいいのでは？」と提案してきたので、「学力調査の趣旨と違います」といい、取り下げさせたといういきさつもあります。管理職は、自校の数値向上に取り組みだしているようです。
- ・市で学力テストの弊害について、つかんでいない。(点数化された学力だけに目が向くことは良くないという事実を教育実践で示すことが必要だと考える。)
- ・子どもが自分の学力に向き合う機会と成っているが、県平均や全国平均と比較し、それよりも上になるようにという目標はどうかと思う。地域によって、住んでいる人も違うので、「去年の自分よりよくなるう」という目標でよいのではないかと思う。
- ・余剰時数が多く、またその大半が算数や国語に割当てられており、児童の負担は大きく、またかたよった教育活動になっている。結果が全てかどうかは別として、他校、他地域比較がされることもあり、点数や結果にこだわる傾向は強くなっている。子ども一人一人のよさに目を向けた教育活動からはかけはなれている。そんな学力テストにお金をかけるなんてナンセンスだと思う。
- ・序列化につながる恐れがある。

### <費用・労力・負担>

- ・事前準備と事後処理のため担当教員は休日返上で毎日遅くまでの勤務だった。児童に直接還元されることは思えない、事後「分析」「対策」のための多大な時間を取られた。こんなことのため多くの費用をかけて、保護者に不安を与えてよいのだろうか。
- ・日々の授業や定期考査、単元テスト等を利用して評価し、それを授業に生かしているので特に必要はないと思います。その費用分で他にやってほしいことがあります。

- ・多額の費用がかかっているのなら、廃止して教員や補助員を増やしたほうがいいと思う。
- ・どこの学校も平均は高い低いがあっても二極化しているのでは。特にうちの学校は二極化が激しくできなかった4~5人が大きく足を引っ張って(→あのタイプのテストをしたことがなく分量を見ただけで取り組みなくなるタイプ。声がけすればできる子たち。)平均を下げているが、全体に対策を、と言われるのが大変。
- ・何千万円ものお金をかけて行う意義はどこにあるのか分からない。人(先生)によっては指導力を問われるような気持ちにもなるらしい。生徒は何の疑問も抱かず黙々と行っているが、ストレスにはなると思う。分析しろ、対策を立てろ、家庭にプリントで知らせろとエスカレートして面倒だ。2~3行でなんとかなるものではないのに。何ポイント高いだの低いので一喜一憂しなければならないような状況もばかばかしい。どういう教育を目指しているのでしょうか?「学力」って点数ですかあー?と思っています。
- ・先日、福島市立余目小に用があって電話をしました。6年生担任のS先生が「クラスは18人です。」と言われたので「1クラスなんですか。」と尋ねたら「いいえ、2クラスです。福島市は『1クラス35人程度』となっているんです。」と話された。仙台市教委は学校づくりのビジョン自体、間違っていると思います。「学力調査」などに発想が向かうこと自体、時代遅れです。学力というのは、普通のことを普通に実践することで、ゆっくりと形になるものです。市の予算のむだ使いです。
- ・地域間の格差をそのままにしたテストに客観性はない。予算の無駄。条件整備にこそ使うべき。
- ・各学校でも自校の実態や問題点を把握するための学力テスト等の実態は少なからずあり、その結果を基に様々な手立てを講じているはずである。そう考えると重複しているところもあり、必要性を感じない。税金の無駄。
- ・必要なし。お金の無駄!!学力テストをやっても全く効果ない。
- ・全校参加でなくても良いと思います。このテストの実施で、テスト業者にかけている費用をもっと有効に使った方が、子どものためになると感じます。
- ・あんなにお金をかけてまでする必要を感じられない。
- ・なくしてほしい。その予算があるのなら別のことに使って欲しい。
- ・文科省の学力調査にかかる労力は相当大きい。しかし、その結果を前年度と比較しても意味がなく、かなりの予算が当てられている意味が分からない・・・。
- ・プレッシャーをかけられるのは教員のみ。
- ・結果が出るのが遅く対策に結びつけるには疑問が残る。このテストのために多額のお金が使われている。その費用を別な教材に使ったほうが良いと思う。また、いろいろな参考資料が出ているが読む時間がなほ忙しい中では無駄というしかない。
- ・6年担任はかなり負担。

#### <教育条件整備こそ>

- ・必要なし。比較だけを行い、競争するようにあおっているだけ。本当に学力を上げたいのなら教員を増やしきめ細かな指導体制を構築すべき。教育予算を増やす。
- ・学力テストを重視せず、児童生徒の学級定数を減らす等に力を入れて欲しい。

## <2回やる必要は？（仙台）>

- ・6年生は「全国～」があるので二重になり、いりません。
- ・個々の学力の定着の様子を知る資料になるとは思いますが、時期や内容、分量については改善の余地が多いし、学力の定着は別の形でも見れるので必ずしも全市一斉のテストは必要ないと思う。
- ・6年生になると仙台市学力検査の後全国学力調査がある。とても大きな負担である。
- ・小6において全国と同時に2度行う必要はない。
- ・小6は全国学力テストもあったので、仙台市のは無くてもいいかなと・・・。

## <学校運営への影響>

- ・修学旅行のため別な日に実施。市教委からそこに学校行事を入れないように言われ、来年度から5月に。
- ・学級づくりの時期にほぼ1日潰して実施する必要は感じない。また、学力をつけようと、教師もいろいろ考え指導法を改善し、子どもたちも毎日の宿題、自主学習をがんばっているが、飛躍的に改善することはむずかしい。地域性や家庭環境の影響は大きい。
- ・どうして（水）の実施かと文科省にまで聞いたら、4/23は「ふみの日」だか「読書の日」だからで実施できないと言われた。（初めの人の変更可だった）修学旅行の帰りの大渋滞を心配し、何度も会議を持つことになった。幸い渋滞はなかったが、訪問先も限定され、本当に困った。

## <子どもへの悪影響>

- ・やめてほしい。下位の子どもたちにとっては、自信をなくすだけ。また、テストの点数が最も大切なような錯覚が生まれ、本来の教育活動に支障をきたす。ペーパーテストの点数が教育をむしろむしばんでいくように感じる。
- ・各校ごと、県ごとの平均が出ますが、それによって子どもたちの意識が下がっているように感じます。うちのような学力底辺校にとってはレベルの高いことを求められているようで苦しいです。
- ・実力を試すものとしてだけとらえれば良い面もあるが、子どもたちの様子（テストへの緊張感など）成績についてなど負担になる部分も多いと思う。子どものためではなく国のメンツのためにやっているような感じがする。ただでさえ競争傾向があるのに、ますます順位主義的になり子ども、保護者、教師のストレスが増す。

## <その他>

- ・現状ならやっても無意味。秋田県の本が売れるだけ。
- ・どのように結果を活かすかが課題。
- ・負担が大きい割に効果が少ない。今の学校の負の状況を生み出している。
- ・やる気のない生徒が多く、それがそのまま高校の中退率につながっている。
- ・学校的には成績下位者が欠席すると、ぐんと成績が良くなる。もともと低い子は欠席がちだが。
- ・特にないが余った冊子に困っている。
- ・理科が出たりなくなったり全校対象になったりなど、ころころとかわるのはひどい。抽出でない分、採点作業がなくなり、少しは楽になったものの・・・。

## 第8回大川小学校事故検証委員会の概要について

### 1 開催日時及び場所

平成25年12月22日（日） 午前10時30分から午後5時30分まで  
宮城県石巻合同庁舎 5階 大会議室

### 2 当日の避難行動の分析

#### (1) 事前対策及び避難行動に関する事実情報

「学校及び周辺の状態と地域の歴史」として地域における過去の災害履歴、「大川小学校付近における地震発生後の対応」として河北総合支所等による避難誘導、地域住民の避難行動、校内における対応、山への避難行動に関して、前回の委員会以降に加筆・修正されたものが示された。

#### (2) 当日の避難行動に関する分析

##### ① 教職員が当日得ていた情報の分析

- 校庭にいた教職員は、防災行政無線やラジオ等から、大津波警報発令に加え、予想津波高6m（当初）や到達予想時刻15時という災害情報を得ていたものと推定される。
- 校庭で二次避難を継続している間の教職員による災害情報の収集は、受け身の姿勢、待ちの姿勢であり、自らが積極的に情報を集めに行くという姿勢が十分ではなかったと考えられる。

##### ② 教職員の津波に対する危機感に関する分析

- 校庭での二次避難を継続している間、少なくとも一部の教職員は、校庭からの三次避難の必要性について検討し、その際に山への避難を考慮したものと推定される。
- 一方で、教職員の意識の中では、焚火の準備などの寒さ対策や建物危険、避難所対応などが大きな課題となっていた可能性があり、学校付近まで津波危険が及ぶ可能性を具体的に想定し、切迫した避難の必要性を認識していた者は多くなかったものと推定される。
- 教職員の津波に対する危機感は時間経過とともに徐々に高まったものと考えられるが、即座に校庭からの三次避難を検討し決断するほどまでに強いものではなかったと考えられる。
- その主な要因として、いわゆる「正常性バイアス」により、危険に関する情報を得ながらも、あえてこれを軽視し大丈夫だと思い込もうとする傾向が生じたことなどが関与していた可能性がある。

##### ③ 避難の意思決定に関する分析

- 15時33～34分頃に校庭からの三次避難が開始されたが、校庭からの避難を意思決定した時点では、大きく切迫した津波来襲の危険性を感じていたのではなく、むしろ念のために避難を決定したものであったと考えられ、移動開始のきっかけは15時32分にラジオから得られた「大津波情報（10m超）」の情報であったと考えられる。
- 避難先、避難経路の選択に際して、教職員が地域住民と相談して決定したものと推定され、避難先として三角地帯が選択されたことについては、学校近隣では比較的高い位置にある平坦な土地であり、山への避難などと比較して、その時点では大きな不安全要素がないと判断されたものと考えられる。

### (3) 当日の行動と事前対策の関連に関する分析（骨子案）

#### ① 大川小学校の防災体制

- ・当日の行動と事前対策の関連性
- ・災害対応マニュアル
- ・マニュアル等の周知・活用

#### ② 市の防災体制

- ・当日の行動と事前対策の関連性
- ・市の防災広報体制
- ・ハザードマップの策定
- ・避難所の指定

#### ③ 教職員の養成・教育

- ・当日の行動と事前対策の関連性
- ・津波・防災，危機管理の知識
- ・地域の状況，災害環境に関する知識・経験

### 3 事後対応に関する事実情報

#### (1) 大川小学校に関する初期情報

##### ① 直後の救援状況

- ・地震発生後，テレビから津波来襲の情報を得た河北消防団幹部らは，まだ明るいうちに大川地区へ向かい，福地地区付近まで到達したものの，その先は流木等で通行できず，堤防上に並んでいる100台を超える車両を地区内陸部へと誘導した。
- ・夜明け頃には，決壊した間垣の堤防の基礎部分を歩いて渡ることによって釜谷地区まで行くことができ，消防団幹部らは翌12日の早朝に釜谷地区へ到達したが，すでに一部の遺体にブルーシートがかけられており，釜谷地区が壊滅状態であることを確認している。

##### ② 教職員・児童らの救助

- ・震災翌日の朝，入釜谷の事業所で合流した教職員と児童らは，入釜谷生活センターに設けられた避難所へ移動。児童2名は負傷していたため，消防団幹部の無線連絡により大川中学校付近まで救急車が手配され，船と救急車により児童2名らは石巻赤十字病院へと搬送され，教職員がこれに付き添った。
- ・その後，この3名は桃生地区の避難所へ移り，児童らは保護者の迎えにより大川地区の避難所へ戻り，教職員は保護者からの勧めもあり自宅へ徒歩で向かった。
- ・この間，教職員は校長や石巻市教育委員会へ連絡を取ろうとしたが連絡の取れない日が続いた。

##### ③ 校長による直後の情報収集・報告

- ・震災当日の午後，休暇を取っていた校長は地震発生を受け自家用車で大川小学校へ向かったが，北上川堤防の手前で渋滞に巻き込まれ通行止めになっていると判断し，対岸側へ向うも新北上大橋が落橋しているとの情報を得て学校へ向かうこと断念。河北総合センター（ビッグバン）へ行き一夜を明かした。
- ・翌12日，河北総合支所で教職員と数名の児童が生存していることを確認。13日以降も，ビッグバンや河北総合支所，警察署，遺体安置所となった飯野川高校などを回り児童等の安否情報を収集し，不完全ながらも生存者の情報を取りまとめ教育委員会へ報告しようと試み，15日に衛星ファクスにより，児童等の安否確認に関する簡単な情報として，その時点で確認されていた生存者数が市教育委員会にもたらされた。
- ・15日に震災後初めて教職員から校長に対し携帯電話のメールにて連絡が入り，翌16日には，震災後初めて校長が市教育委員会に登庁。校長が学校現場に初めて入ったのは17日であり，報道関係者の車に乗せてもらったと証言している。

#### ④ 石巻市教育委員会の対応状況

- ・ 震災当時、市教育委員会では教育長が欠けており、事務局長が教育長代理を務めていたが、6月25日に新教育長が就任し、その状態は是正された。
- ・ 市役所周辺では1週間程度水が引かず、市役所は孤立していた。
- ・ 市教育委員会は、各学校と連絡を取ろうとしたが、電話が通じたのは約半分程度の学校に過ぎず、震災から数日間は、市教育委員会としての独自の情報収集が極めて困難であり、自衛隊などから市災害対策本部に寄せられた情報によるところが大きく、「大川地区が壊滅状態」などの情報もあったが、具体的なことは分からなかった。
- ・ 市内の多くの学校が住民の避難所となっていたため、市教育委員会に寄せられた情報のほとんどが避難所への支援要請であり、震災後の市教育委員会の問題意識の中心は避難所運営にあった。
- ・ 震災から1～2週間過ぎた頃になって、大川小の被害状況が他校と比べ特別に大きいことが市教育委員会にも明らかになってきた。

#### ⑤ 生存教諭による教育委員会への報告

- ・ 3月25日、校長と教職員が連れだって市教育委員会に登庁して震災当時の状況について報告し、市教育委員会では対応可能な2名の指導主事が聴き取りに当たり、そのメモをもとに聴き取り記録を作成した。

### (2) 児童・遺族などへの対応

#### ① 登校日

- ・ 市教育委員会が、3月13日付けで各学校の判断で登校日を実施するよう事務連絡を発出したため、大川小においても校長の判断で3月29日に生存児童が集まる登校日を実施された。
- ・ 生存児童とその保護者を中心に告知がなされたため、すべての遺族にその開催が知らされていなかったことに加え、報道機関の取材に対し校長が「子どもたちの顔に明るさがあったので安心した」や「笑顔いっぱい学校を作ろう」などと発言したこともあり、被災状況に関する遺族への説明もないまま登校日を実施されたことについて、遺族への配慮不足として違和感を持った遺族が少なくなかった。
- ・ 登校日の翌日、当時のPTA関係者から、行方不明児童の捜索活動の強化と説明会の開催を要望する声が寄せられた。

#### ② 第1回保護者説明会

- ・ 第1回説明会は4月9日に開催され、市教育委員会からは事務局長や学校教育課長等に加え、生存した教職員も急きょ出席することになり、教職員は当日の状況について自ら説明したが、その説明のうち、「山で木が倒れる様子を見た」という発言や「波をかぶり、靴もなくなった」などと説明した点について、他の証言との齟齬から遺族の不信感を高めることとなった。

#### ③ 児童等への聴き取り

- ・ 5月上旬から中旬にかけて、生存児童らへの聴き取り調査が実施されたが、その手順や方法について専門家に助言を求めることはなく、事前に保護者の同意を得ずに実施されたものもあった。
- ・ 聴き取りに際して、担当者は手書きでメモをとって報告書作成の都度それを廃棄し、録音もしていなかったが、そのことが後に聴き取り記録の正確性や質問項目等に関して疑問が呈されることとなり、意図的な廃棄やねつ造まで疑われる結果となった。

#### ④ 第2回保護者説明会

- ・ 6月4日に、市長も出席し第2回説明会が開催されたが、説明会冒頭に市教育委員会から「1時間を目途に終了させていただく」という発言があり、質疑途中であるにもかかわらず「時間なので」と説明会は終了となった。市教育委員会は、多忙な市長の日程を勘案して1時間としたと説明している。
- ・ この説明会において、市長による「自然災害における宿命」という発言があったが、これは「もし自分の子どもが亡くなったら、自分自身に問うということしかなく、これが自然災害における宿命だと、そう考えるということ」と述べたものである。
- ・ 説明会終了後、保護者から今後の開催について問われ、市教育委員会は「予定していない。これで終わり」と回答し、取材に対しては「遺族は納得した」と発言した。
- ・ 以上のような説明会のあり方に心情を傷つけられたと証言する遺族は多く、中には「もう話を聞きたくない」「顔も見たくない」という遺族もいる。

#### ⑤ 遺族対応に関する市の体制

- ・ 石巻市の災害対策本部会議や庁議では、大川小学校の事故への対応が議論されたことはないが、第1回保護者説明会に際して、市長から「重大な問題なので教育委員会としてしっかり対応せよ」という指示が出された。
- ・ 第2回保護者説明会の前には、市長が臨席することから事前に日程調整が行われ、その中で市長の予定を勘案して時間を1時間とすることが決定された。

#### ⑥ 第3回以降の遺族との話し合い

- ・ 平成24年1月22日に第3回目の遺族との話し合いが行われ、前回説明会の前日の6月3日に生存した教職員から学校に送付された手紙が公開されたが、なぜこの時期まで公開しなかったのか不信を招くこととなった。
- ・ 6月初旬、遺族への事前相談がないまま「第三者検証委員会の委託事業に2000万円の予算を計上」という報道がなされ、遺族有志は市教育委員会と遺族が事実情報を突合して真相を明らかにすることを求め、時期尚早として反対した。
- ・ 第三者機関設置の予算は、6月22日に石巻市議会で可決されたが、予算執行には遺族の合意を得ること、第三者機関設置後も教育委員会と遺族との話し合いを継続することなどの附帯決議が付された。
- ・ 市教育委員会と遺族との話し合いは、平成25年9月まで10か月以上中断した。

#### ⑦ 教職員遺族への対応

- ・ 震災後、教職員遺族への対応は大川小学校が中心となり行われており、校長や教頭などが教職員遺族のもとへ個別に弔問に訪れていたが、市教育委員会が教職員遺族を対象として説明会を開催したのは、平成24年2月になってからである。

### 4 遺族との意見交換

前回の検証委員会に引き続き、遺族と検証委員会がしっかりと向き合うことを目的として対話の場が設けられ、当日の検証委員会の内容等に関して様々な御意見が出された。

### 5 遺族への報告

平成25年12月29日（日）に石巻市河北総合センターにおいて、児童及び教職員遺族への報告会を開催し、第8回検証委員会の主な内容等について報告した。

### 6 次回の検証委員会の開催予定

平成26年1月19日（日） 宮城県石巻合同庁舎



### 第345回宮城県議会議案に対する意見について

平成26年1月宮城県議会に提出される下記の予算外議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定により、知事から意見を求められたので、教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和31年宮城県教育委員会規則第12号）第3条第1項の規定により平成26年1月8日専決処分し、異議のない旨回答した。よって、同条第2項の規定により報告する。

#### 記

##### 予算外議案

- ・財産の取得について（宮城県気仙沼向洋高等学校建設用地）

平成26年1月15日提出

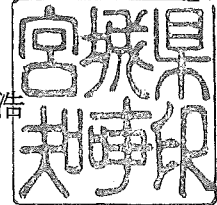
宮城県教育委員会教育長 高 橋 仁



財 第 2 0 6 号  
平成 2 6 年 1 月 8 日

宮城県教育委員会委員長 殿

宮城県知事 村 井 嘉 浩



第 3 4 5 回宮城県議会議案について (照会)

このことについて、下記議案を提出したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号) 第 2 9 条の規定により、貴委員会の意見を求めます。

記

予算外議案

財産の取得について (宮城県気仙沼向洋高等学校建設用地)

26.1.-8

第345回宮城県議会（臨時会）提出予算外議案の概要【教育委員会関係分】

議第1号議案

財産の取得について（宮城県気仙沼向洋高等学校建設用地）

宮城県気仙沼向洋高等学校建設用地を取得することについて、  
地方自治法の定めるところにより、議会の議決を受けようとするもの

所管 施設整備課

- 取得しようとする財産の所在地 気仙沼市長磯中原地内外  
34筆
- 取得しようとする財産 土地 60,102㎡
- 取得金額 443,286,000円
- 取得しようとする財産の所有者 小野寺義勝外24人

## 県有体育施設のネーミングライツについて

### 1 宮城球場におけるネーミングライツスポンサー企業の選定結果について

#### (1) ネーミングライツ取得企業

楽天株式会社 代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

#### (2) 契約金額

1年当たり 2億100万円（消費税及び地方消費税は別途）

#### (3) 契約期間

平成26年1月1日から平成28年12月31日までの3年間

#### (4) 新愛称等

- ・愛称 「<sup>らくてん</sup>コボ<sup>みやぎ</sup>スタジアム宮城」 ※“K”は大文字，“Kobo”は半角表記
- ・短縮表記 「<sup>みやぎ</sup>コボスタ宮城」

### 2 その他7施設におけるネーミングライツの募集について

#### (1) 目的

県有体育施設の今後の安定した施設運営に向けて、次の対象施設のネーミングライツスポンサーを募集するもの。

今後、平成29年度には、全国高校総合体育大会(インターハイ)が南東北三県(宮城・福島・山形)で開催され、また、宮城スタジアムについては、2020年東京五輪のサッカーの試合会場(候補)となっており、これらを成功させるためにも、ネーミングライツにより得られた収入を活用し、県のスポーツ振興施策の充実強化を図るもの。

#### (2) 対象施設及び金額

No	施設名	所在地	募集金額(※)
1	宮城県総合運動公園 総合プール (メインプール, サブプール, 飛び込みプールの3施設)	宮城県利府町菅谷字館 40-1	年額100万円以上
2	宮城県総合運動公園 宮城スタジアム (補助競技場・投てき場含む)	同上	年額500万円以上
3	宮城県サッカー場	宮城県利府町森郷字内の 目南119-1	年額100万円以上
4	宮城県第二総合運動場 (武道館, 近的弓道場, 遠的弓道場, クライミングウォール, 合宿所の5施設)	仙台市太白区根岸町 15-1	年額200万円以上
5	宮城県仙南総合プール	柴田郡柴田町大字本船 迫字十八津入内	年額50万円以上
6	宮城県長沼ボート場	登米市迫町北方字天形 114-2	年額10万円以上
7	宮城県ライフル射撃場	石巻市沢田字金山 51-1	年額10万円以上

※消費税及び地方消費税は別途

#### (3) 契約期間

平成26年4月1日から原則3年以上

#### (4) 申込期間と選定結果の公表

- ① 申込期間 平成26年1月6日(月)から2月7日(金)まで
- ② 結果の公表 平成26年2月下旬(予定)

#### (5) その他

期間内に申込がなかった施設については、継続して公募し、先着順による。

## 平成２９年度第４１回全国高等学校総合文化祭宮城大会について

## １ 趣 旨

高等学校教育の一環として、高等学校生徒に芸術文化活動を全国的な規模で発表する場を提供することにより、芸術文化活動への参加意欲を喚起し、創造的な人間育成を図るとともに、全国的、国際的規模での生徒相互の交流・親睦を図る。

併せて、本大会を通じ、宮城の復興の確かな歩みと元気な姿を広く発信し、御支援をいただいた多くの方々に感謝の気持ちを表す。

## ２ 主 催

文化庁，（公社）全国高等学校文化連盟，宮城県・宮城県教育委員会，開催市町村・同教育委員会，宮城県高等学校文化連盟ほか

## ３ 開催期間（予定）

平成２９年７月３１日（月）から８月４日（金）までの５日間

## ４ 開催内容

（１） ７／３１（月） ※仙台市内で開催予定

- ① 総合開会式（２，５００人程度の観覧者・関係者）
- ② マーチングバンド等によるパレード（５０，０００人程度の観覧者・関係者）

（２） ７／３１（月）～８／４（金） ※県内の市町村において開催予定

- ① １９部門の開催「各都道府県代表による演奏・演技発表，優秀作品の展示」  
[ 演劇，合唱，吹奏楽，器楽・管弦楽，日本音楽，吟詠剣詩舞，郷土芸能，  
 マーチングバンド・バトントワリング，美術・工芸，書道，写真，放送，  
] 囲碁，将棋，弁論，小倉百人一首かるた，新聞，文芸，自然科学

- ② 協賛部門（開催県が独自に設定する部門）の開催 ※以下の４部門を検討中
  - ・特別支援学校部門（特別支援学校高等部生徒による演奏・演技発表，作品展示）
  - ・ボランティア部門（ボランティア関係部活動に所属する高校生の活動発表，フィールドワーク）
  - ・工業部門（工業高校の生徒による工業関係部活動の研究発表，作品展示）
  - ・軽音楽部門（軽音楽部に所属する高校生の演奏）

## ５ 大会規模

【参加者見込数：１５０，０００人】

（内訳）

参加生徒	引率教員	観覧者	参加校
２０，０００人	４，０００人	１２６，０００人	３，０００校

## 6 皇族のお成り

例年，秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下のお成りを仰ぎ，総合開会式及びパレード等を御覧いただいている。

## 7 開催までのスケジュール及び準備体制

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
		開催決定	プレ大会開催	本大会開催
	開催準備委員会	実行委員会		
		生徒実行委員会		

(参考)

### 第 4 1 回全国高等学校総合文化祭宮城大会 第 1 回開催準備委員会

[日時] 平成 26 年 1 月 23 日 (木) 午後 2 時 30 分～午後 4 時

[会場] 行政庁舎 2 階 第二入札室




[委員]

宮城県教育庁教育次長	宮城県教育庁特別支援教育室長
宮城県高等学校文化連盟会長	宮城県教育庁高校教育課長
宮城県教育庁生涯学習課長	宮城県教育庁スポーツ健康課長
宮城県総務部秘書課長	宮城県警察本部地域部地域課長
宮城県総務部私学文書課長	宮城県警察本部交通部交通規制課長
宮城県総務部広報課長	仙台東警察署地域課長
宮城県環境生活部消費生活・文化課長	仙台東警察署交通課長
宮城県経済商工観光部観光課長	宮城県高等学校長協会会長
宮城県経済商工観光部国際経済・交流課長	宮城県特別支援学校長会会長
宮城県教育庁総務課長	宮城県私立中学高等学校連合会会長
宮城県教育庁教職員課長	宮城県高等学校文化連盟副会長
宮城県教育庁義務教育課長	宮城県高等学校文化連盟各専門部部长

[会議内容]

- (報告事項) 開催準備経過  
開催準備委員会設置要綱 等
- (協議事項) 大会開催概要 (案)  
準備事業計画 (案)  
マスコットキャラクターの選定 (案)  
大会テーマ，ポスター原画，イメージソング歌詞の募集 (案) 等
- (連絡事項) 大会基本方針  
開催会場選定 等

## 教育庁関連情報一覧（平成25年12月20日～平成26年1月14日）

NO.	概 要
1	<p><b>○県農業高校の生徒が農林水産大臣賞を受賞</b></p> <p>「ご当地！ 絶品うまいもん甲子園」（一般社団法人全国食の甲子園協会主催）において、同校生徒が創作した『伊達なハイカラぎょーど』が最優秀賞にあたる農林水産大臣賞を受賞し、活動の成果を生徒自らが報告するため、12月24日（火）に知事を表敬訪問した。</p> <p style="text-align: right;">（担当：高校教育課）</p> 
2	<p><b>○東日本大震災復興支援 特別公開 ゴッホの《ひまわり》展の開催が決定（12／25発表）</b></p> <p>会 期：平成26年7月15日（火）から平成26年8月31日（日）まで</p> <p>場 所：宮城県美術館</p> <p>観覧料：一般 700円，学生 500円，小中高生 無料</p> <p>展示作品：ゴッホの《ひまわり》，パウル・クレー，モーリス・ド・ヴラマンク，長谷川湊二郎など国内外の作家による「花」をモチーフにした絵画18点の予定</p> <p style="text-align: right;">（担当：生涯学習課）</p> 
3	<p><b>○羽生結弦選手がソチオリンピック冬季大会の日本代表に決定</b></p> <p>羽生結弦選手（ANA）が第82回全日本フィギュアスケート選手権大会で優勝し、ソチオリンピック冬季大会の日本代表に決定。その結果を羽生結弦選手及び関係者が報告するため、12月27日（金）に知事を表敬訪問した。</p> <p style="text-align: right;">（担当：スポーツ健康課）</p> <p>【参考】第22回オリンピック冬季競技大会（ソチ）  開会式：平成26年2月7日（金） 閉会式：平成26年2月23日（日）  フィギュアスケート男子シングル 2月13日（ショート），14日（フリー）</p> 

## 平成26年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（12月末現在）について

	H25.3月末	H25.7月末	H25.8月末	H25.9月末	H25.10末	H25.11末	H25.12末	前年同月	増減 (当月－前年同月)	
内定率	98.5%	—	—	37.3%	62.6%	78.9%	<b>87.2%</b>	87.4%	-0.2%	
男子	99.0%	—	—	39.3%	65.5%	80.9%	<b>88.2%</b>	89.5%	-1.3%	
女子	97.9%	—	—	34.5%	58.8%	76.3%	<b>85.8%</b>	84.7%	1.1%	
全国平均	95.8%	—	—	—	64.1%	—	—	—	—	
内訳										
卒業予定者	20,462	20,029	20,015	19,957	19,970	19,950	<b>19,945</b>	20,514	▲ 569	
進学希望者	15,382	14,715	14,760	14,706	14,833	14,859	<b>14,875</b>	15,481	▲ 606	
臨時的仕事希望者	245	37	65	70	86	96	<b>106</b>	99	7	
進路未定者	63	208	153	130	116	113	<b>109</b>	104	5	
就職希望者	4,772	5,069	5,037	5,051	4,935	4,882	<b>4,855</b>	4,830	25	
内訳	県内	4,028	4,428	4,316	4,298	4,207	4,174	<b>4,155</b>	4,070	85
	県外	744	641	721	753	728	708	<b>700</b>	760	▲ 60
	職安・学校紹介	4,093	4,278	4,201	4,163	4,134	4,147	<b>4,140</b>	4,180	▲ 40
	縁故・自営	330	175	230	230	255	277	<b>298</b>	293	5
	公務員	349	616	606	658	546	458	<b>417</b>	357	60
就職内定者	4,702	—	—	1,882	3,089	3,853	<b>4,234</b>	4,220	14	
内訳	県内	3,960	—	—	1,469	2,531	3,234	<b>3,581</b>	3,523	58
	県外	742	—	—	413	558	619	<b>653</b>	697	▲ 44
	職安・学校紹介	4,038	—	—	1,820	2,873	3,436	<b>3,718</b>	3,734	▲ 16
	縁故・自営	321	—	—	62	100	134	<b>195</b>	176	19
	公務員	343	—	—	0	116	283	<b>321</b>	310	11
就職未内定者	71	—	—	3,169	1,846	1,029	<b>621</b>	610	11	
月間受験者数	100	—	—	3,949	1,014	800	<b>348</b>	405	▲ 57	

## 【概況】※( )内は前年同月

- ① 就職内定率 : 87.2% (87.4%)
- ② 進路希望の割合状況 : 進学 74.6% (75.5%) 就職 24.3% (23.5%)  
: 臨時的仕事 0.5% (0.5%) 未定 0.6% (0.5%)
- ③ 就職希望者の割合 : 県内 85.6% (84.3%) 県外 14.4% (15.7%)
- ④ 県内外の内定率 : 県内 86.2% (86.6%) 県外 93.3% (91.7%)
- ⑤ 内定者の割合 : 県内 84.6% (83.5%) 県外 15.4% (16.5%)
- ⑥ 学科別内定率

	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	その他	総合学科
平成25年度	80.0%	94.1%	95.3%	90.2%	94.6%	81.8%	76.9%	89.1%
平成24年度	81.6%	92.3%	95.2%	86.3%	88.7%	86.9%	70.5%	91.8%

## ⑦地域別内定状況

	白石	大河原	仙台	大和	塩釜	大崎	石巻	栗原	登米	気仙沼
平成25年度	93.1%	90.5%	84.2%	89.1%	80.7%	91.7%	83.6%	92.3%	91.0%	90.7%
平成24年度	90.6%	86.1%	84.0%	95.8%	81.8%	91.8%	84.3%	98.2%	91.6%	92.1%

## ⑧県内求人倍率

宮城労働局発表 県内求人倍率(11月末現在)(職安学校紹介のみ、ただし支援学校・通信制含む)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内求人数	6,568	5,666	3,297	3,489	4,389	6,418	7,443
県内求職者数	4,716	4,350	3,814	3,793	3,112	3,517	3,558
求人倍率	1.39	1.30	0.86	0.92	1.41	1.82	2.09



# ミュシヤ展

パリの夢  
モラヴィアの祈り

2014

1/18

SAT

3/23

SUN

休館日 毎月曜日  
閉館時間 9:30~17:00  
(発券は16:30まで)



ALPHONSE MUCHA An Insight into the Artist  
あなたが知らない本当のミュシヤ。

〈観覧料〉一般1,300(1,200)円、学生1,100(1,000)円、小・中・高校生600(500)円 ※( )は20名以上の団体

〈主催〉宮城県美術館、ミヤギテレビ、ミュシヤ財団

〈後援〉チェコ共和国大使館、仙台市教育委員会、宮城県文化振興財団、仙台市市民文化事業団、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、KHB東日本放送、テレビ岩手、福島中央テレビ、Date fm、ラジオ3FM76.2、河北新報社、読売新聞東北総局、山形新聞・山形放送、福島民友新聞社、仙台リビング新聞社

〈協賛〉大日本印刷、日本興亜損害保険 〈仙台展協賛〉社の都信用金庫 〈協力〉全日本空輸、KLMオランダ航空、日本通運 〈企画協力〉NTVヨーロッパ

〈前売券〉一般1,100円、学生900円、小・中・高校生500円 ※前売券は1月17日まで発売

〈前売券・当日券発売所〉宮城県美術館、藤崎、仙台三越(前売券のみ)、エス・バム(前売券のみ)、ローランドネット(コード:24364)、ナカバシ(コード:765-903)、セブンイレブン(セブンコード:026-152)、イーアス <http://eplus.jp> (FamilyMart/FamiPortでの申込み可)、みやぎ生協共同購入部(前売券のみ)、金通堂書店(本店・泉パークタウン店)、紀伊國屋書店(仙台店、宮城野原1階売店(前売券のみ))、ミヤギテレビ事業部(Tel. 022-215-7700 <http://www.mmt-tv.co.jp/mucha>)

〈特別協賛〉木下工務店



宮城県美術館  
THE MIYAGI MUSEUM OF ART





a.



b.



e.



c.



d.



f.

a. (四季) 1896年 カラーリトグラフ (屏風型フレーム・エディション) 54×106cm ©Mucha Trust 2013 / b. (ジスモンダ) 1894年 カラーリトグラフ 216×74.2cm ©Mucha Trust 2013 / c. (ヤザスラの肖像) 1927-35年頃 油彩・カンヴァス 73×60cm ©Mucha Trust 2013 / d. (1918-1928年エッセイ・エッセイ・エッセイ) 1921年頃 油彩・カンヴァス 98×88cm ©Mucha Trust 2013 / e. (ジューブ) 1896年 カラーリトグラフ 66.7×46.4cm ©Mucha Trust 2013 / f. (母と子守唄) (プラハ・ハナレル合唱団の歌) のための劇作) 1921年頃 油彩・カンヴァス 98×88cm ©Mucha Trust 2013

# あなたが知らない本当のミュシャ。ALPHONSE MUCHA An Insight into the Artist

ミュシャ財団秘蔵

## ミュシャ展 | パリの夢 モラヴィアの祈り

アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、ベル・エポック(良き時代)のパリで一世を風靡したアーティストです。画家、イラストレーターと様々な顔を持つミュシャですが、その活躍は、1894年末、代役としてはじめて制作したポスター《ジスモンダ》の爆発的な成功からはじまり、今も、幅広い人気をもっています。一方、ミュシャは生涯を通し画家としての活動も続けています。本展では、有名なカラーリトグラフによる作品だけではなく、世界初公開である《スラヴ叙事詩 第9番(クジージュキの集会)》の下半分の下絵など芸術家ミュシャの代表作といえる《スラヴ叙事詩》連作(本展へは未出品)につながる13点の習作や下絵の他、素描、油彩など、ミュシャ財団のファミリーコレクションから出品された246点によって、今まであまり知られてこなかった芸術家ミュシャの思想や芸術理念までも紹介いたします。

### 関連事業

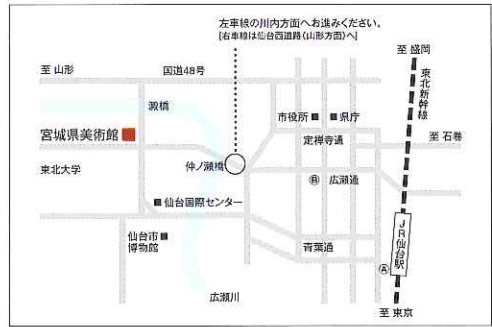
- 特別講演会  
講演者: ミュシャ財団キュレーター 佐藤智子氏  
2014年1月18日(土) 午後1時30分～ アートホール
- 講演会「世紀末のアルフォンス・ミュシャ」  
講演者: 海野 弘氏(美術評論家、作家)  
2014年1月25日(土) 午後1時30分～ アートホール
- まちなか美術講座「パリのミュシャ モラヴィアのムハ」  
講師: 学芸員 大嶋貴明  
2014年2月1日(土) 午後1時～ 東北工業大学 一番町ロビー
- ミュージアムコンサート「ミュシャに寄せる、アール・ヌーヴォーの響き」  
演奏: 門脇和泉(ヴァイオリン)、大宮香織(ソプラノ)、Ensemble Nouveau  
2014年3月1日(土) 午後1時30分～ エントランスホール
- ギャラリートーク 担当学芸員  
2014年2月8日(土)、2月22日(土)、3月15日(土)  
いずれも、午後1時30分から 2階展示室入口

観覧料 (円)	一般	学生	小・中・高校生
当日	1,300	1,100	600
団体(20名以上)	1,200	1,000	500
前売り	1,100	900	500

前売券・当日券発売所 ※前売券は1月17日まで発売  
宮城県美術館、藤崎、仙台三越(前売券のみ)、エスマル(前売券のみ)、ローンチケット(Lコード:24364)、チケットぴあ(Pコード:765-903)、セブンイレブン(セブンコード:026-152)、イープラス <http://eplus.jp> (FamilyMart Famiポートでの申込みもできます)、みやぎ生協共同購入部(前売券のみ)、金港堂書店(本店・泉パークタウン店)、紀伊國屋書店仙台店、宮城県庁1階売店(前売券のみ)、ミヤギテレビ事業部(Tel.022-215-7700 <http://www.mmt-tv.co.jp/mucha>)

### 交通案内

- ※駐車場に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。
- バスご利用の場合
    - 仙台駅西口バスプール 仙台市営バス16番乗場から「交通公園行(広瀬通経由)」に乗車、二高・宮城県美術館前下車
    - 広瀬通一番町バス停(仙台フォーラス前)からも上記「交通公園行(広瀬通経由)」バスをご利用いただけます。
  - タクシーの場合/仙台駅から約10分
  - るーぶる仙台バスの場合/二高・宮城県美術館前下車
  - 高速道路利用の場合  
東北自動車道 仙台宮城I.C.より仙台方面(仙台西道路)に入り、青葉城址方面を經由して美術館へ、I.C.より約15分。



●次回特別展予告  
手塚治虫×石ノ森章太郎 マンガのちから  
2014年5月31日(土)～7月27日(日)

宮城県美術館 THE MIYAGI MUSEUM OF ART  
〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 Tel.022-221-2111  
<http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>